平成25年度　第4回熊本市障がい者自立支援協議会

資料３

「障がい者の就労について」 取組報告

～就労継続A型･B型事業所へのアンケート等を通じて～



平成26年2月21日

熊本市障がい者自立支援協議会就労部会

A型サポーター委員会　山田浩三

本報告のアウトライン

１．平成25年度アンケート結果
　　（就労継続A型・B型事業所）

２．A型事業所研修会を開催して

３．今後に向けて

１．平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型事業所）

平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

【調査票の回収状況】

（A型）

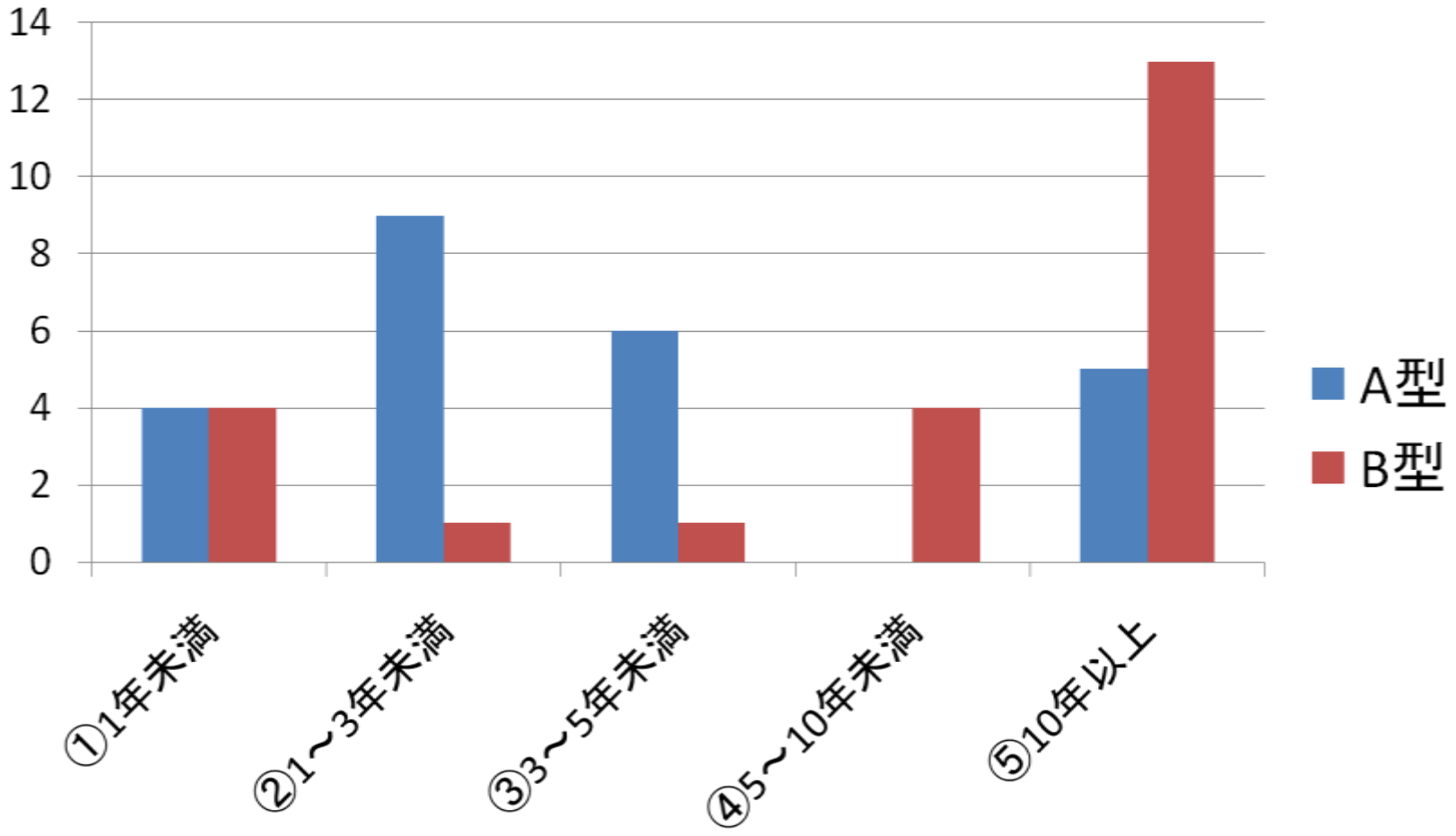
- 調査対象：34ヶ所
- 有効回答数：24
- 回収率：70.6％

（B型）

- 調査対象：◯ヶ所
- 有効回答数：20
- 回収率：◯％

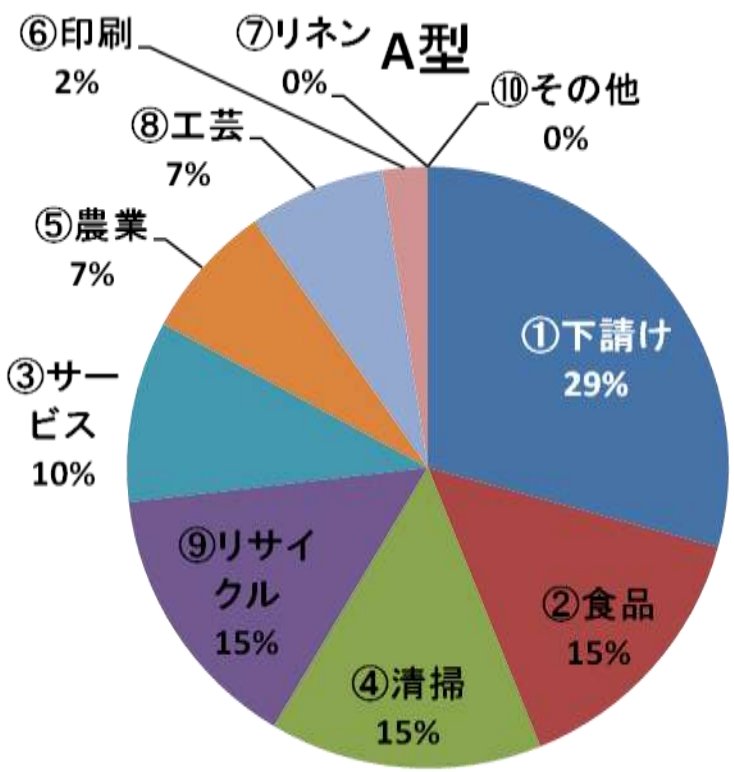
平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

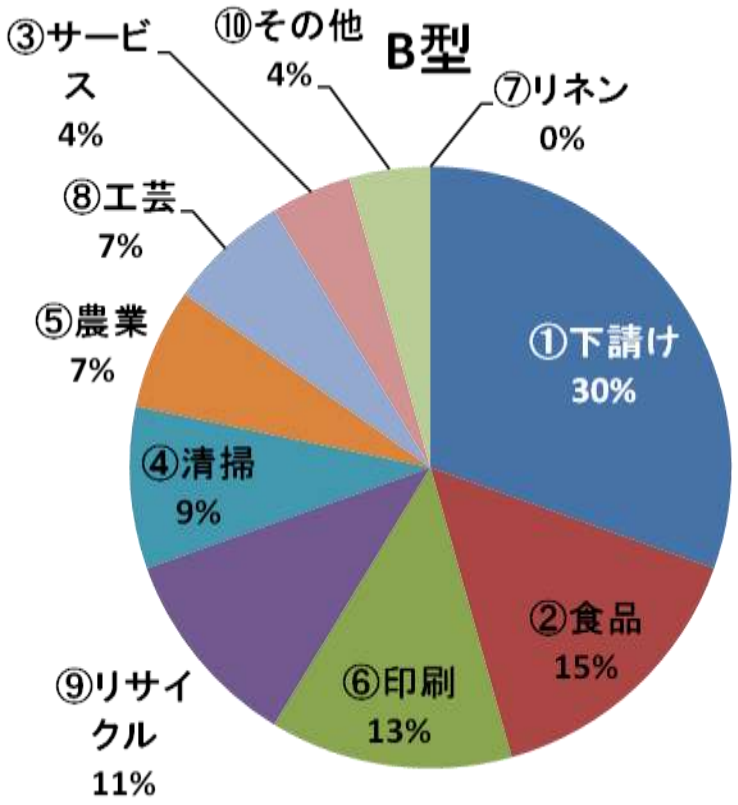
【事業所の開所年数】



平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

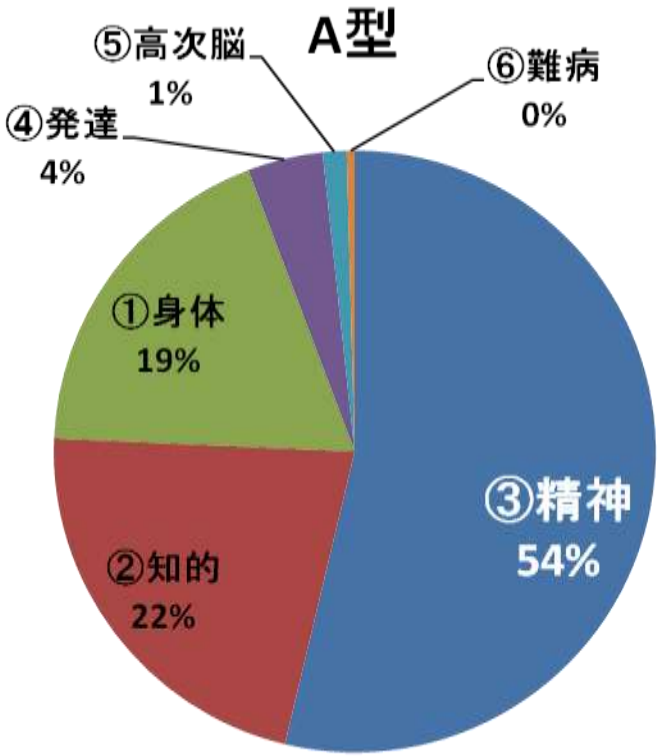
【事業所の業務内容】

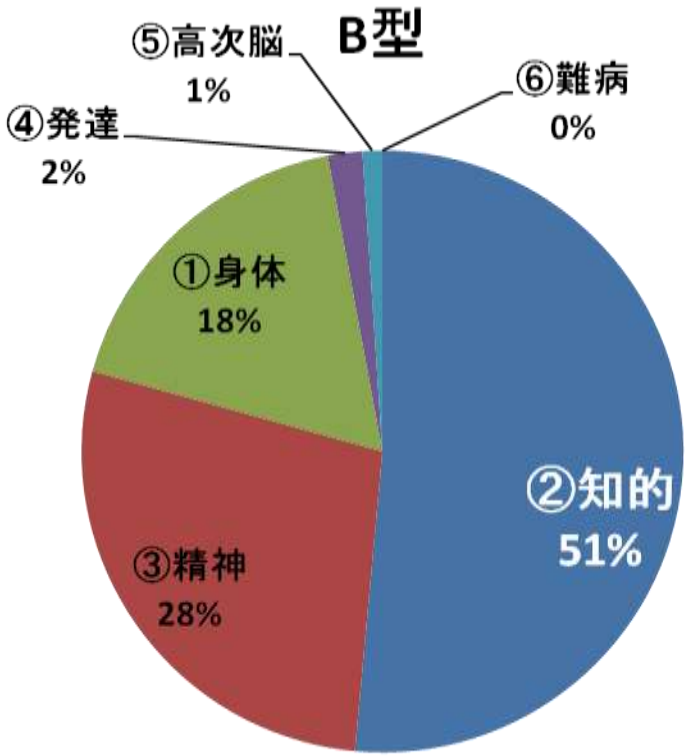




平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

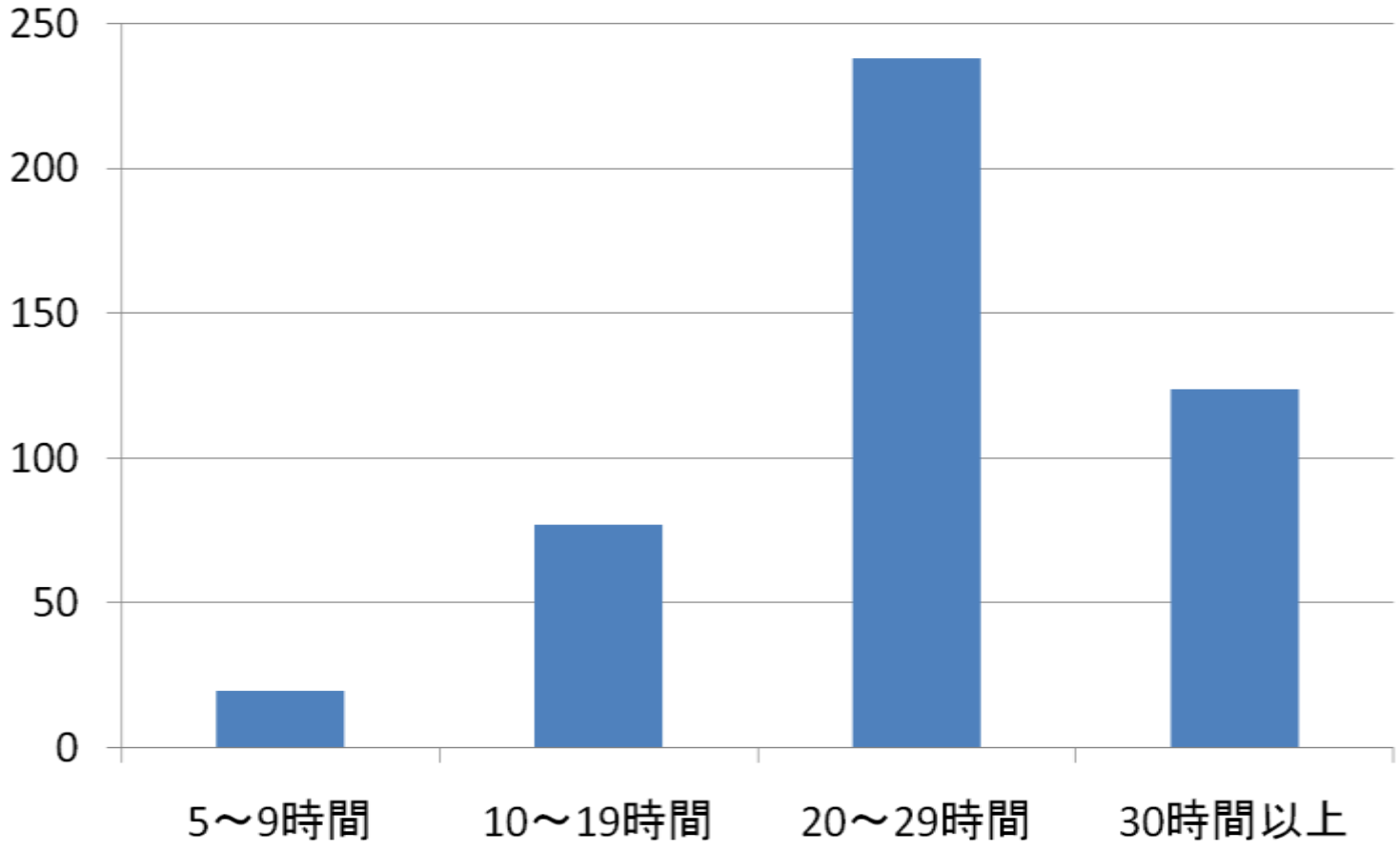
【利用者の障がい種別】





平成25年度アンケート結果
（就労継続A型）

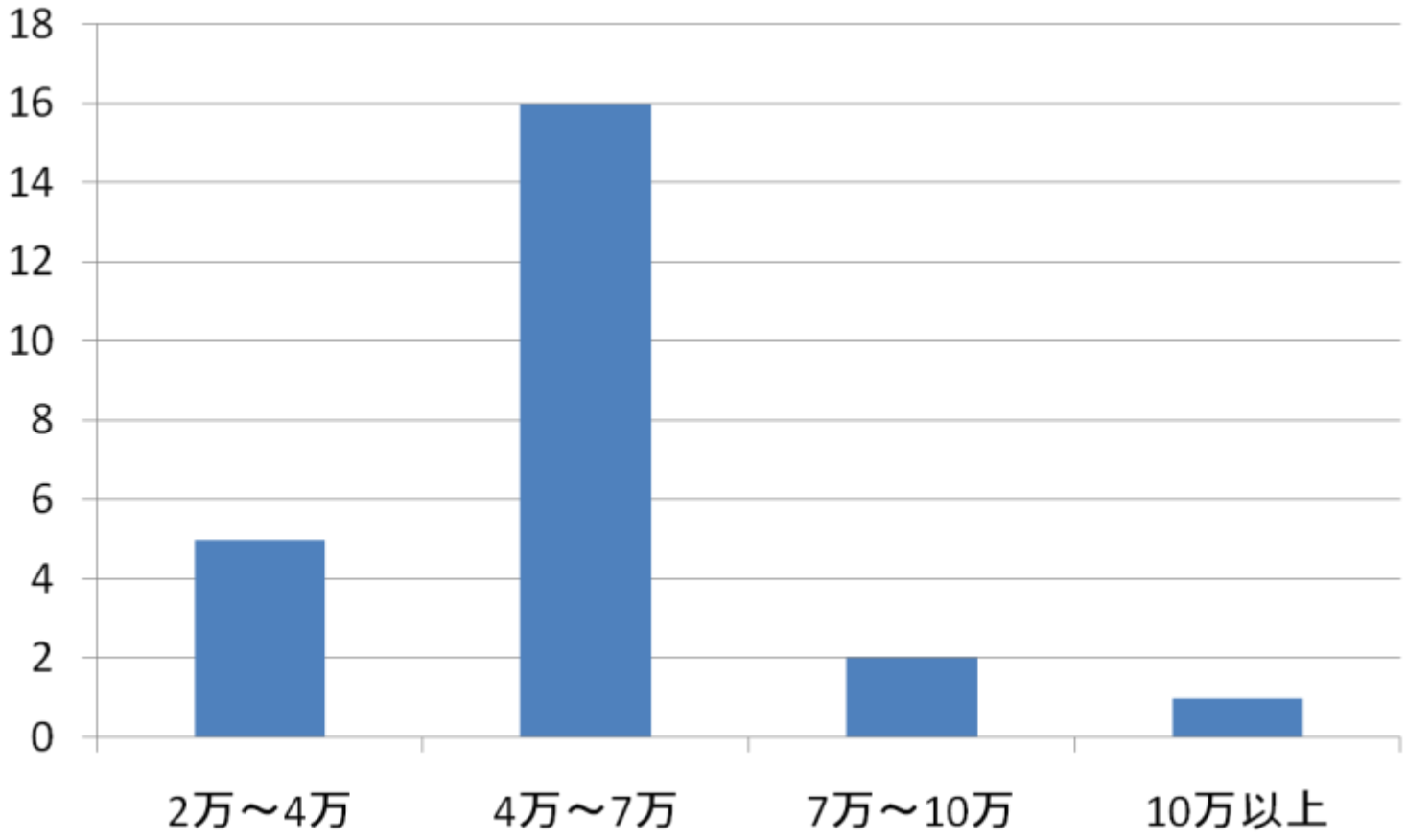
【平均利用者数（週）】



平成25年度アンケート結果
（就労継続A型）

【平均給与】

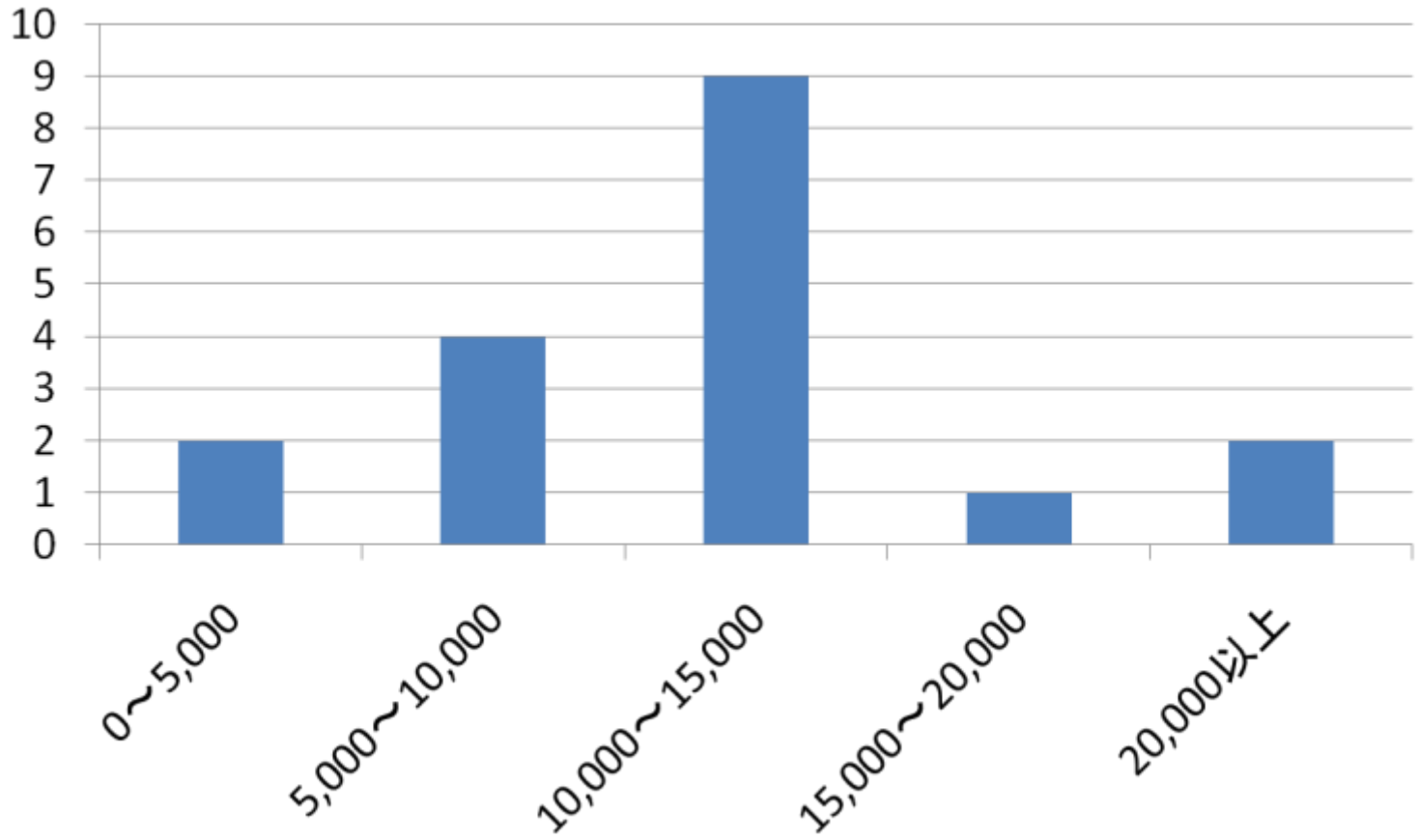
（単位：円）



平成25年度アンケート結果
（就労継続B型）

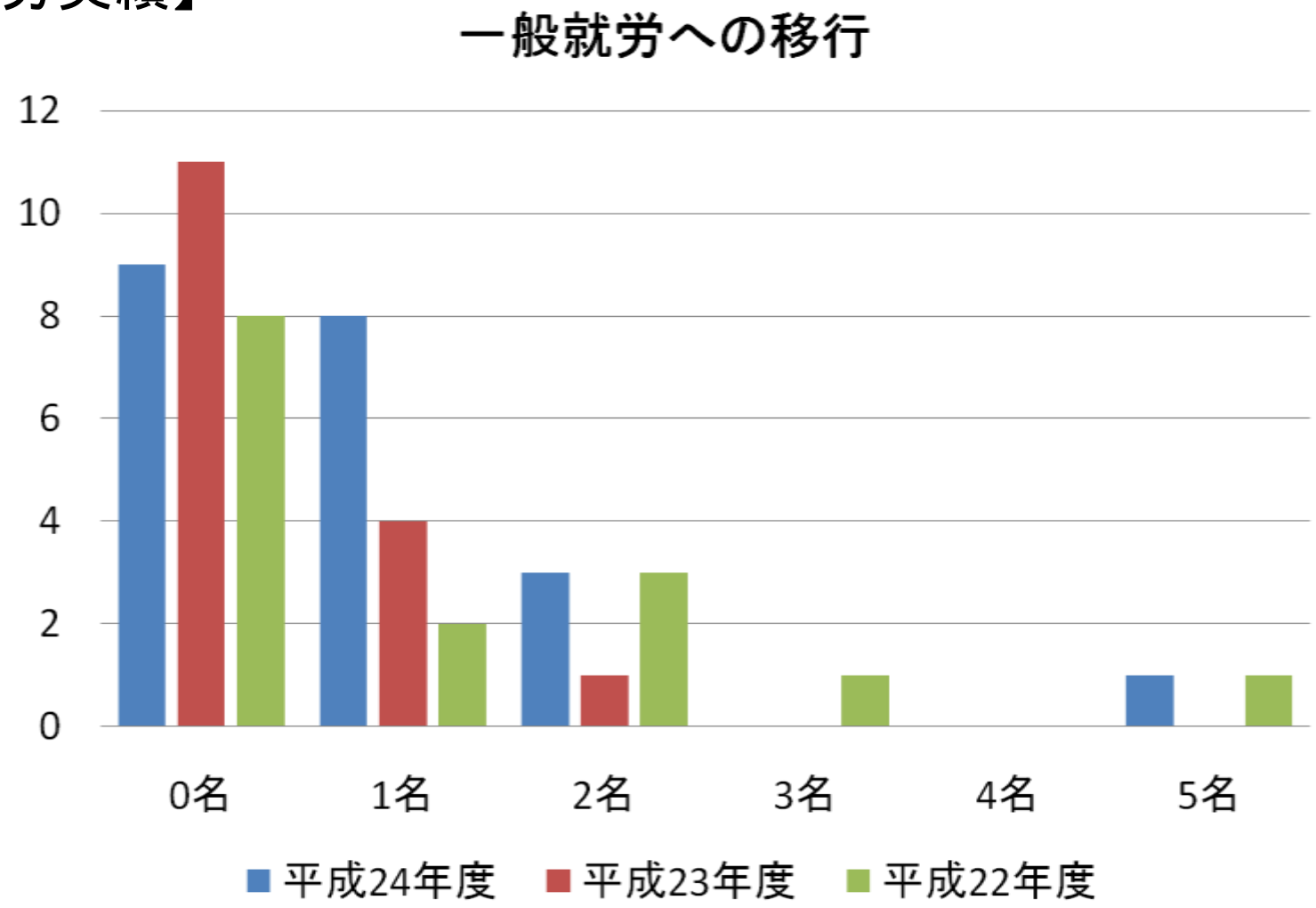
【平均工賃】

（単位：円）



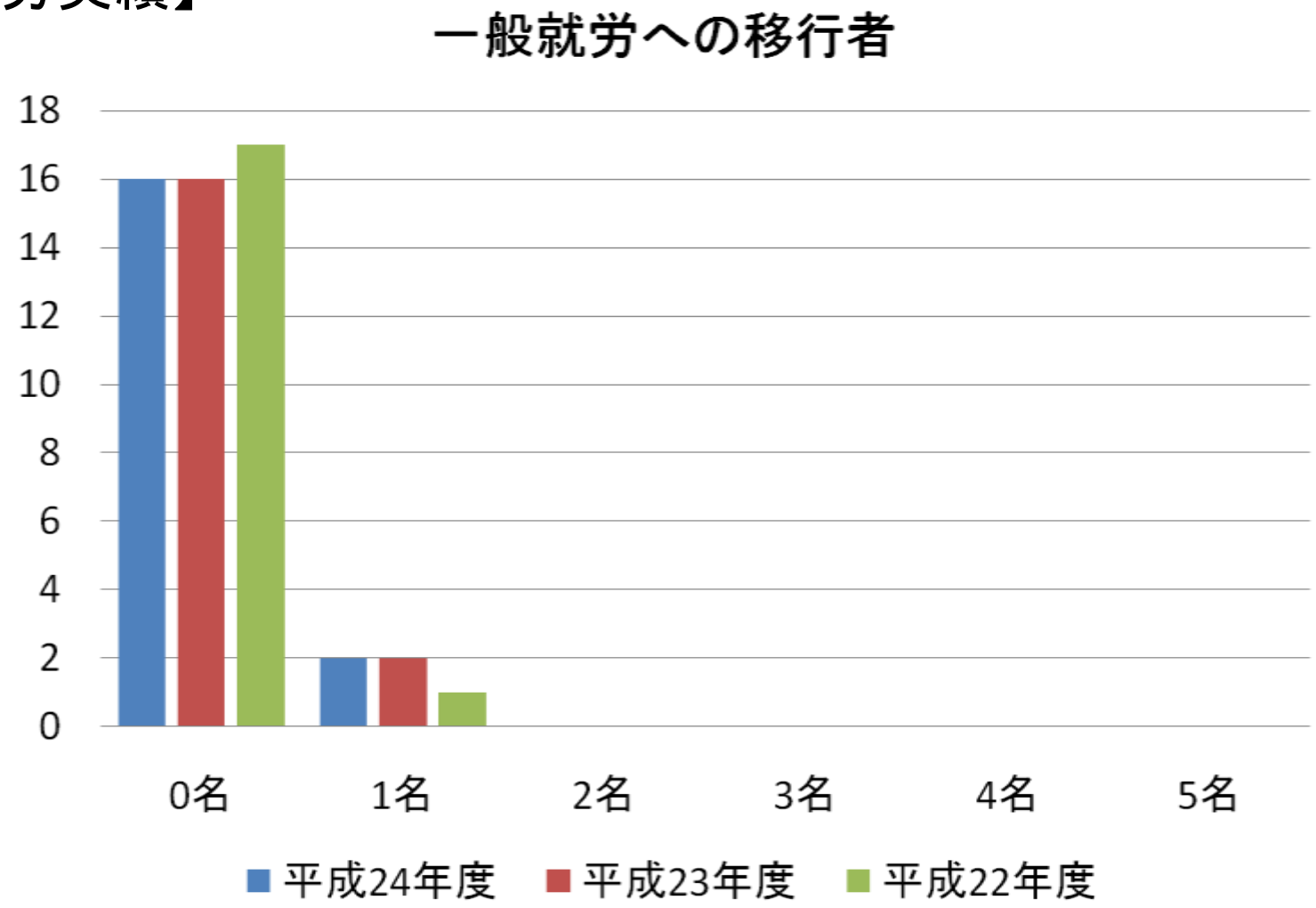
平成25年度アンケート結果
（就労継続A型）

【就労実績】



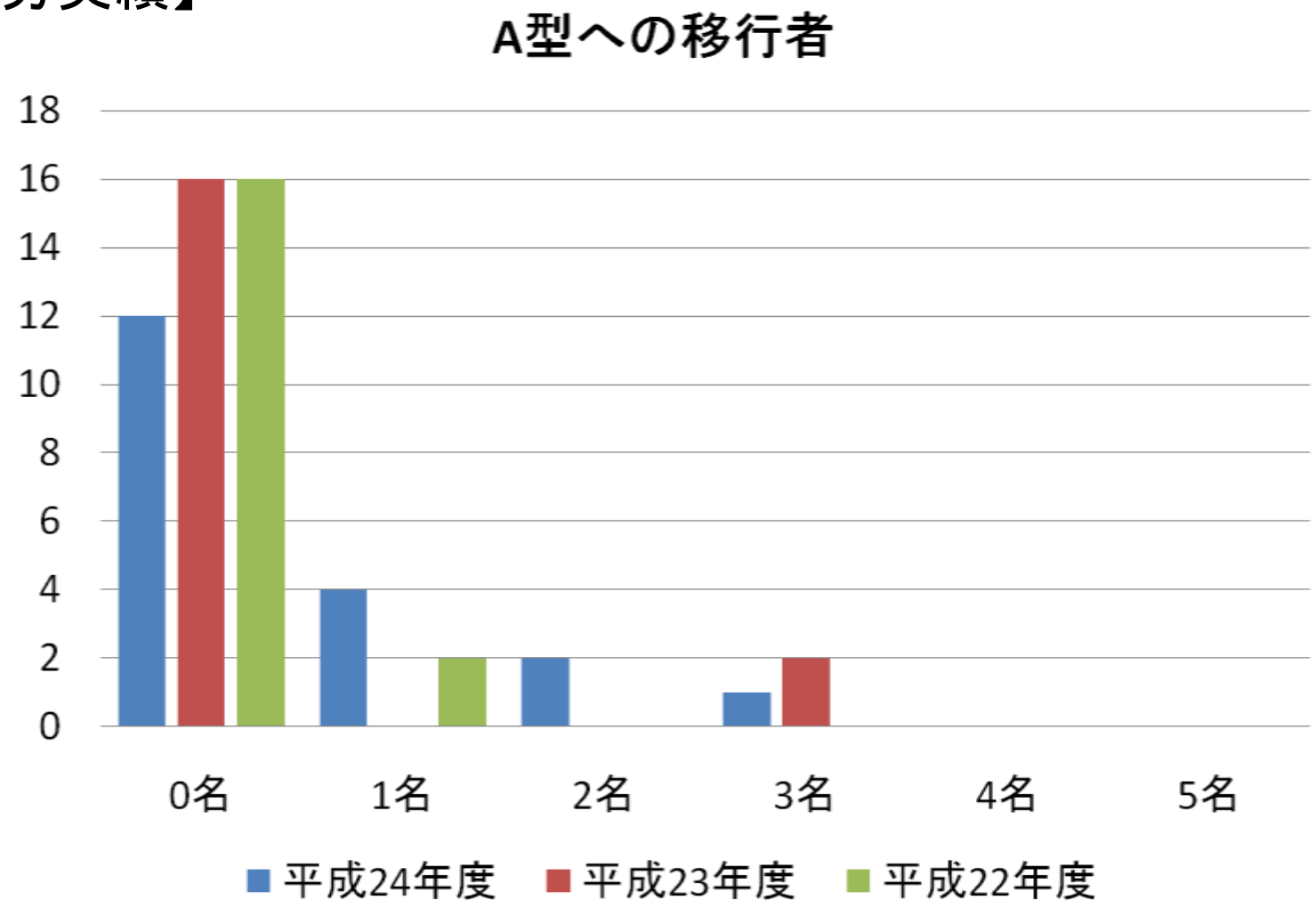
平成25年度アンケート結果
（就労継続B型）

【就労実績】



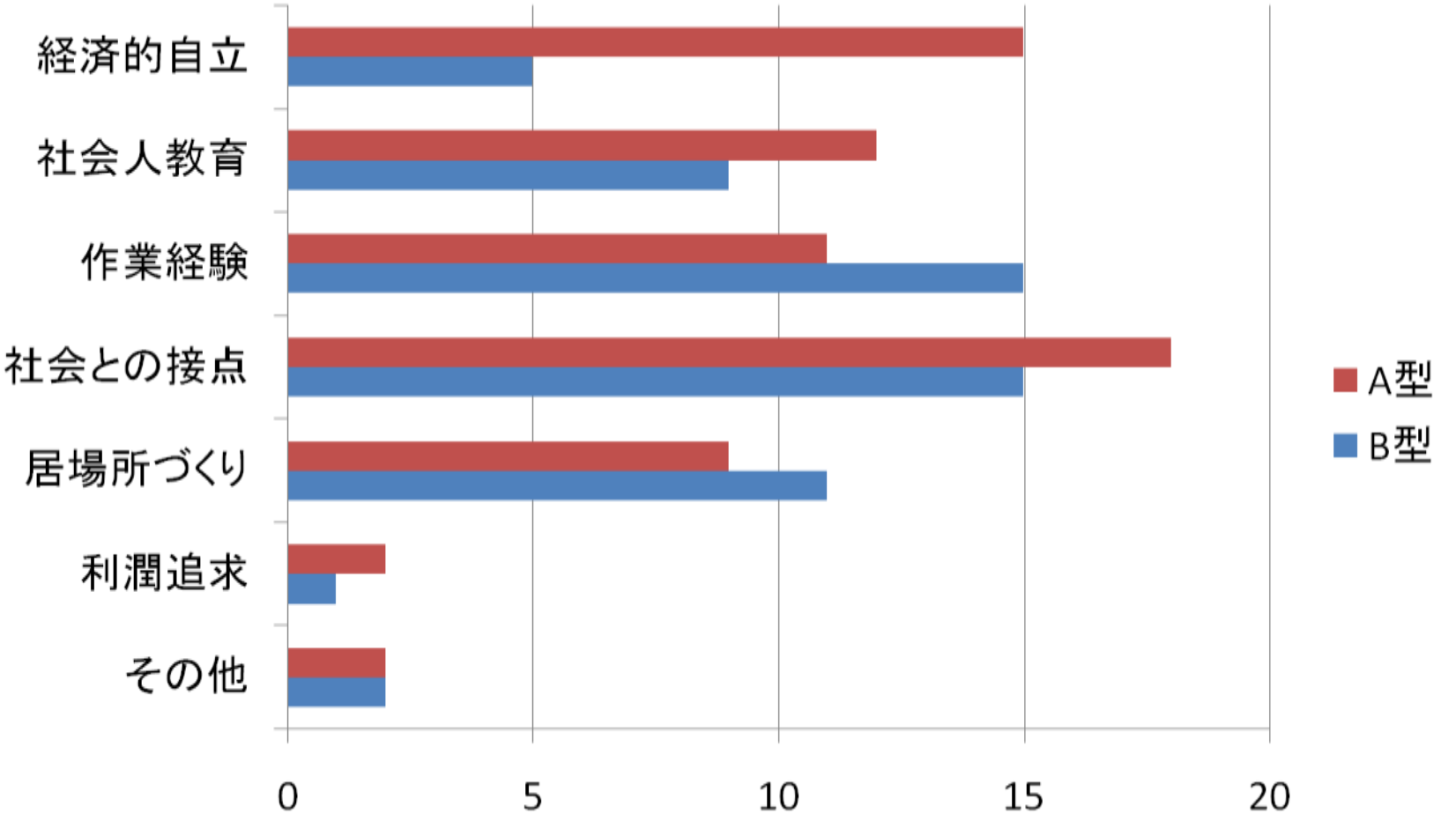
平成25年度アンケート結果
（就労継続B型）

【就労実績】



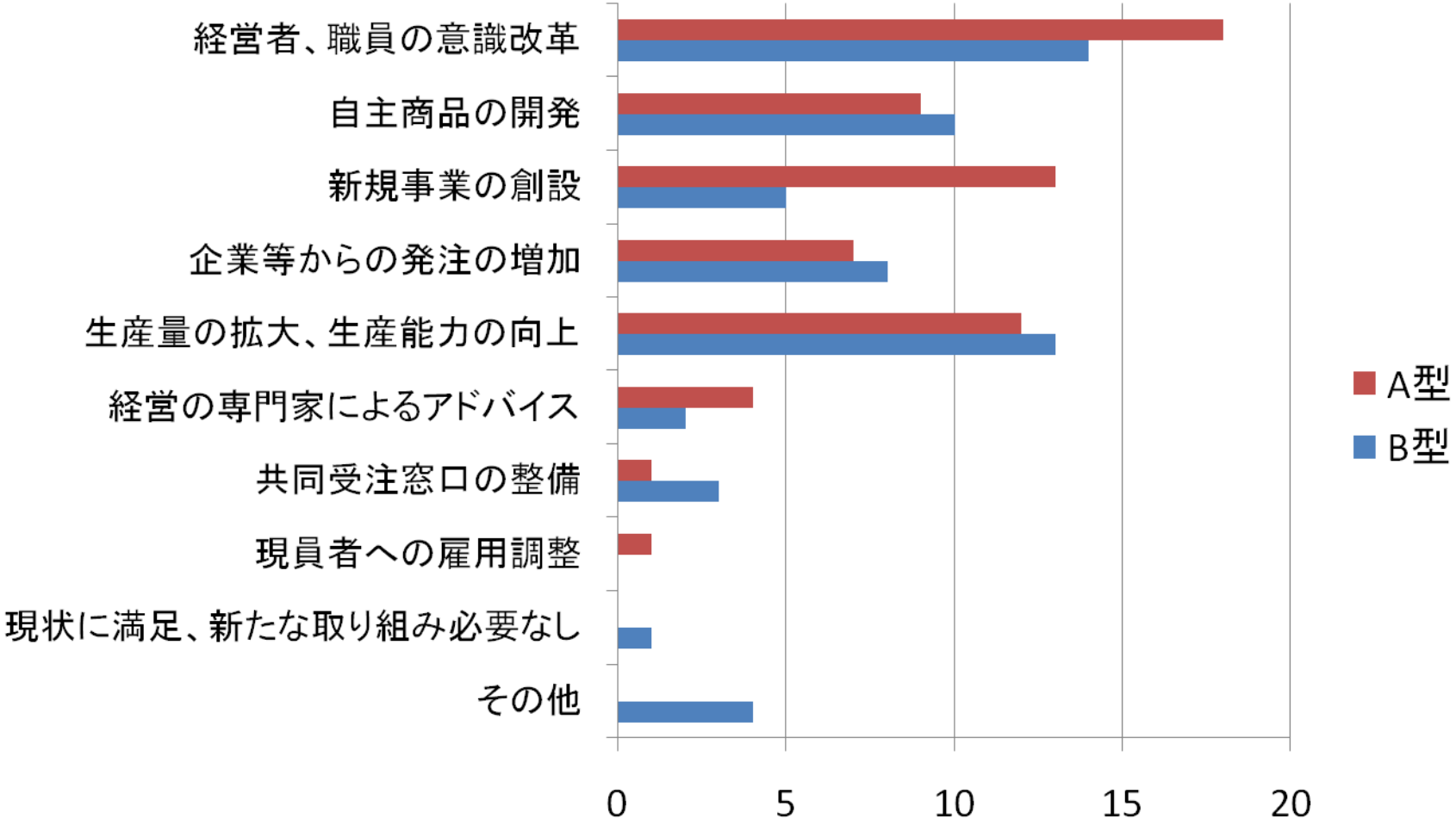
平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

【事業所運営への基本理念や思い】



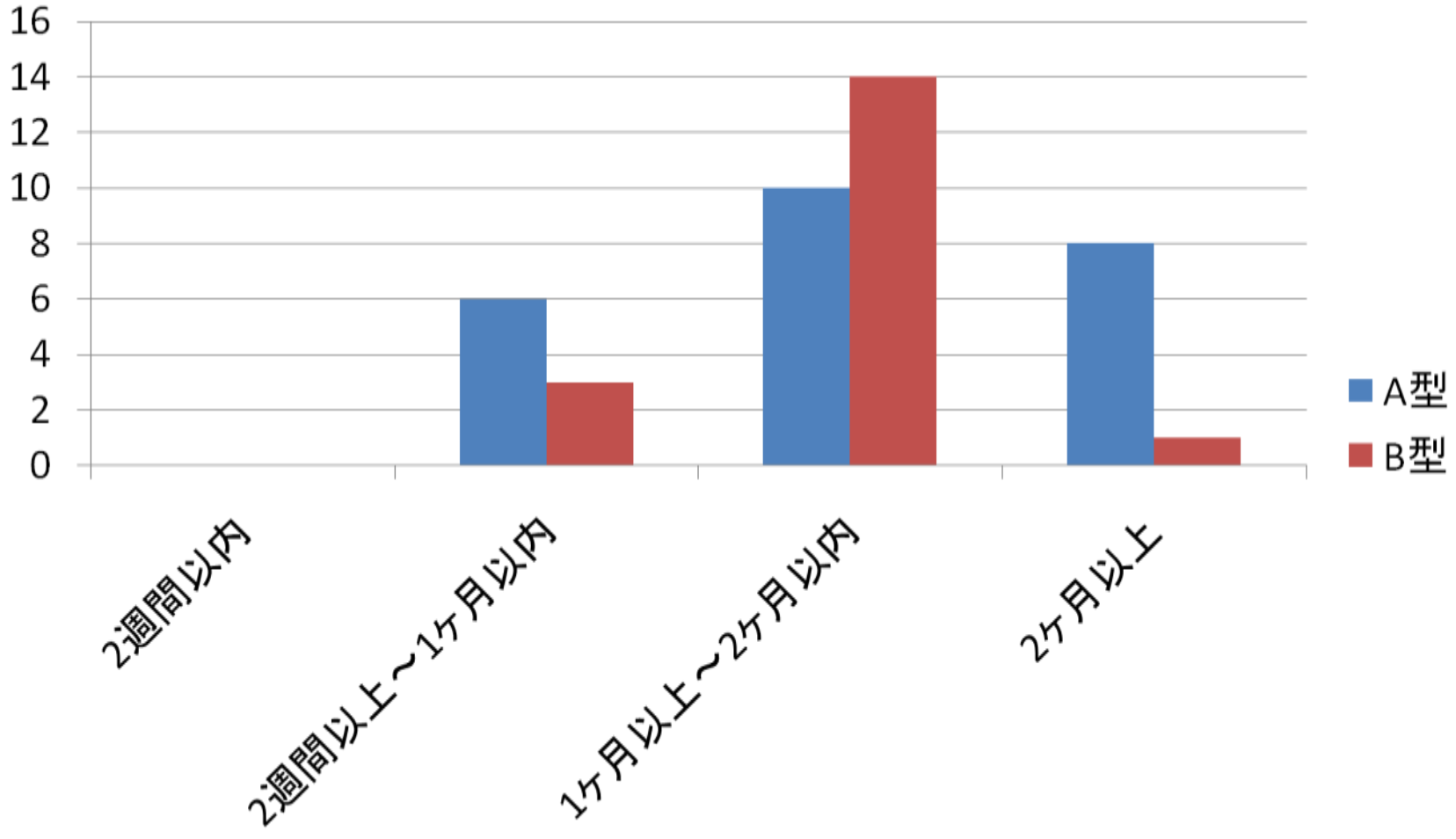
平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

【事業所運営向上のための取り組み】



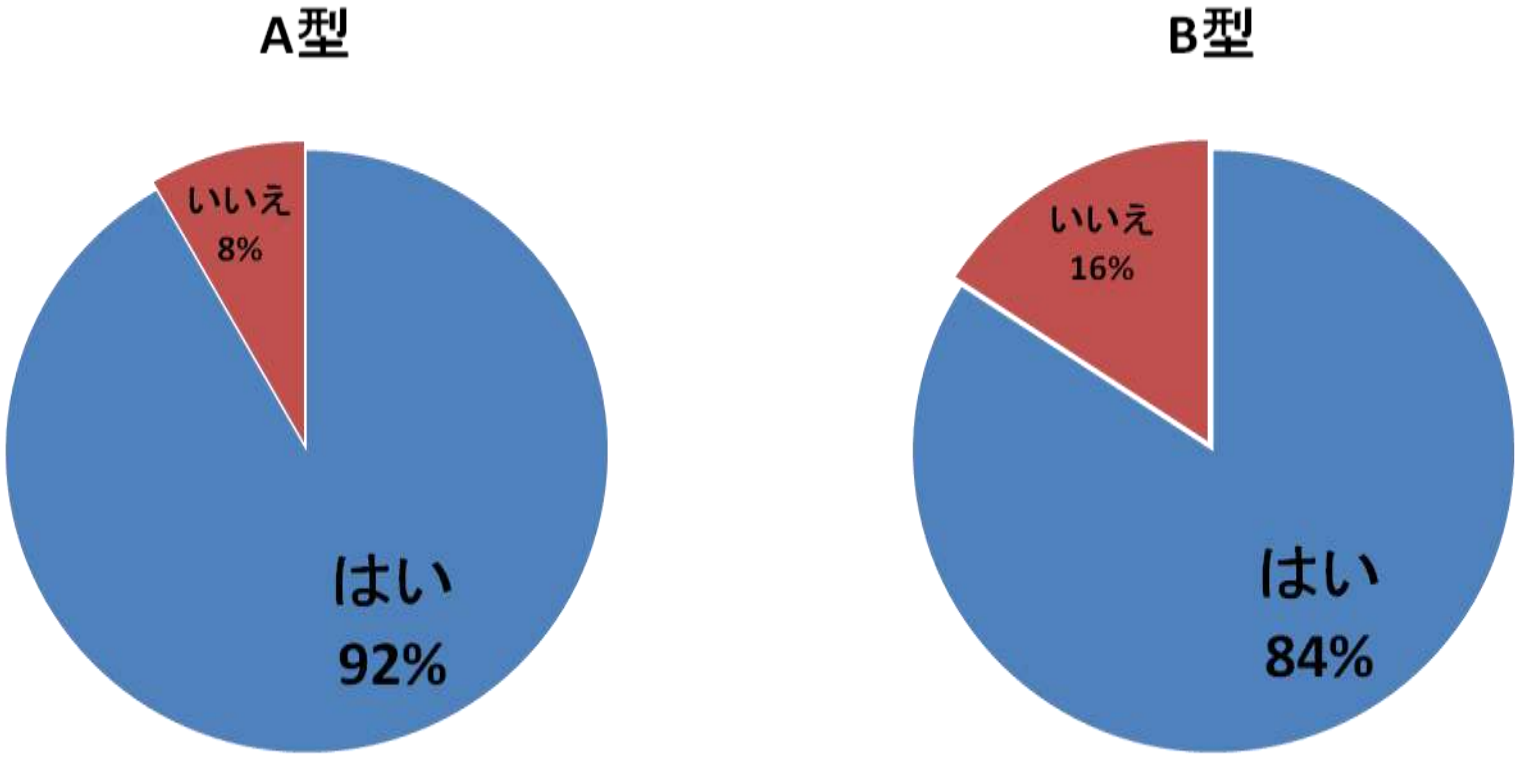
平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

【サービス受給者証の申請から利用開始までの待機期間】



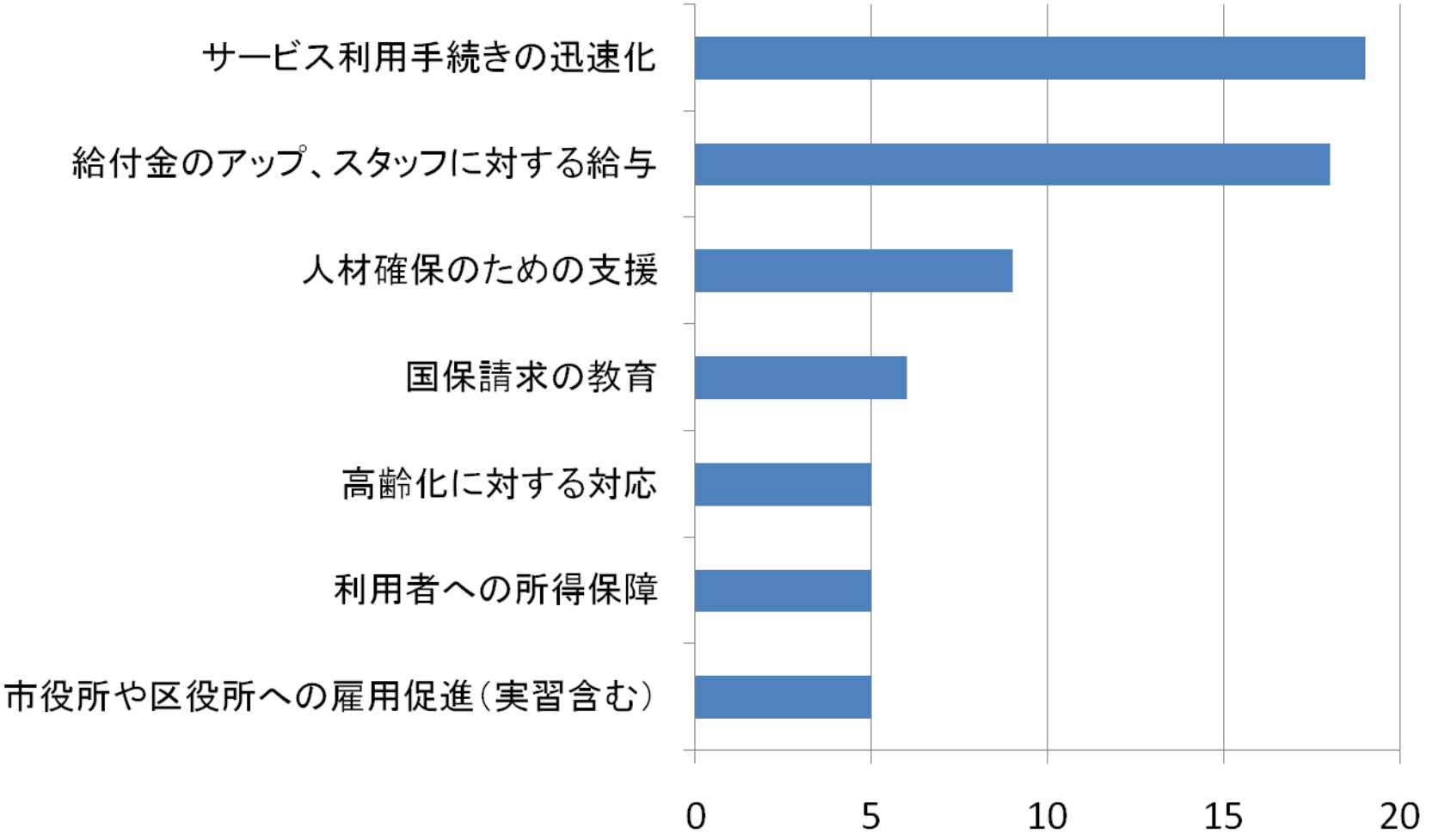
平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

【利用開始までの時間が長いと思うか】



平成25年度アンケート結果
（就労継続A型）

【公的機関に希望する事業所への支援】



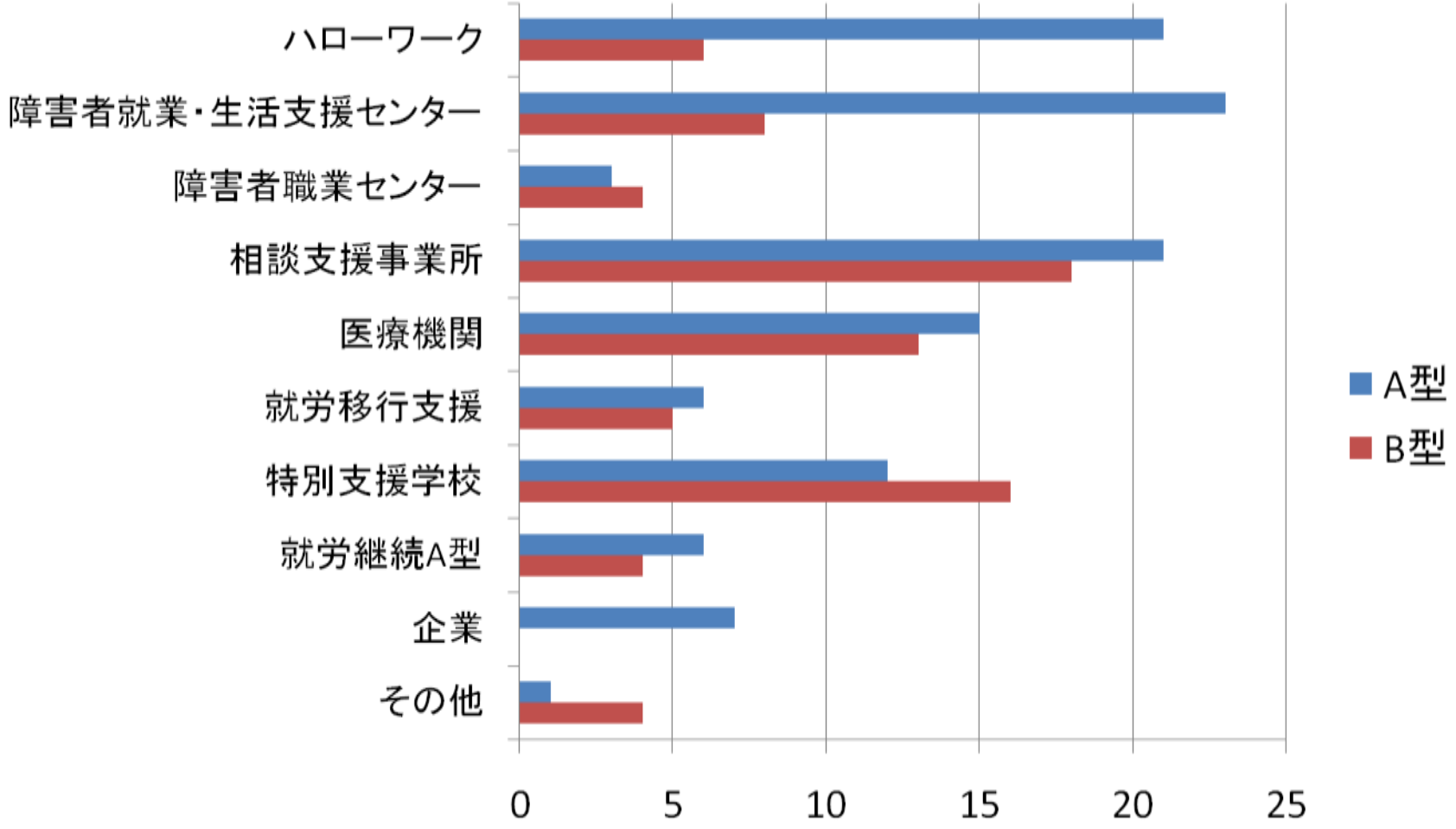
平成25年度アンケート結果
（就労継続B型）

【公的機関に希望する事業所への支援】

- サービス等利用計画について受けてくれる相談支援事業所が、計画相談がいっぱいで受けきれない状況になっている。区役所の窓口で受けてくれる相談支援事業所をしっかり決めてもらえるシステムができるとよいと思う
- 介護保険制度同様に遡及の原理を用いていただきたい。申請日が利用開始であると利用者のモチベーションの維持向上や経済的な負担がものすごく軽減されると感じる
- 人員の配置増および建物の補修、生産活動に必要な機器等の購入支援
- 基盤整備事業の継続および対象事業所の拡大
- 就労希望の方への就労支援とアフターフォロー
- 就労面についての専門家によるアドバイス
- 障がい当事者や事業所の実態を熟知したコンサルタントの派遣
- 公的機関からの発注および企業等との連携支援
- お金をつけるより、仕事を出してほしい。優先発注や役務の委託など
- イベントの中で販売会ができるように紹介や斡旋をしてほしい

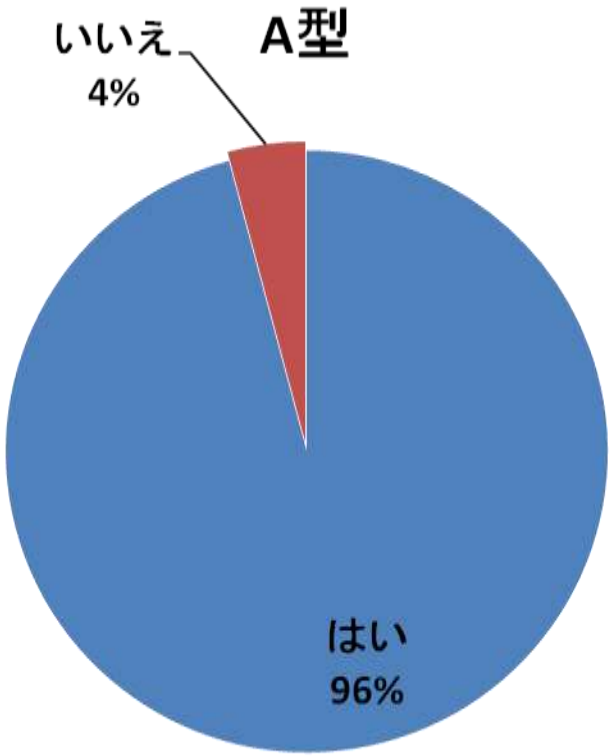
平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

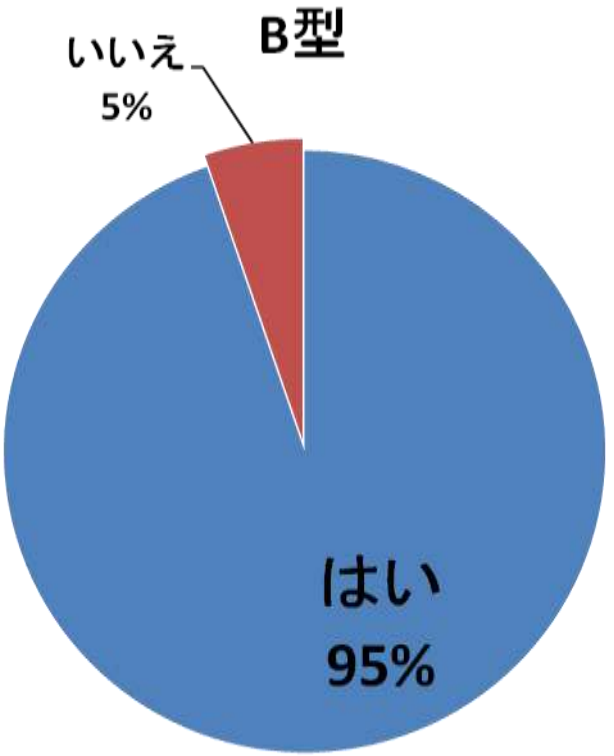
【関係機関との連携】



平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

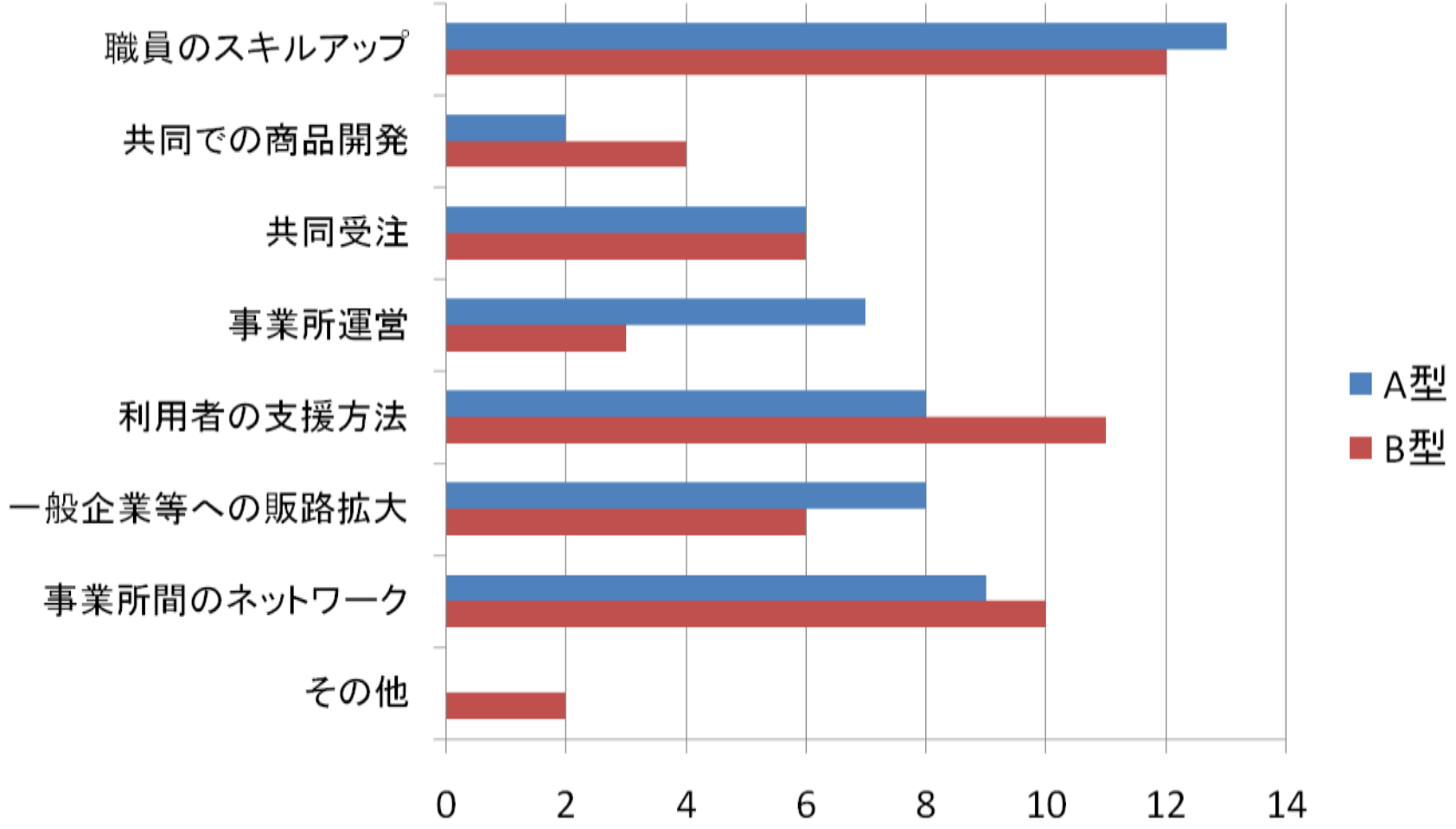
【話し合える場への参加希望】





平成25年度アンケート結果
（就労継続A型・B型）

【話し合う内容】



【現状考えられる課題】

（事業所運営）

・事業収入が低い

・利用者の労働時間が短い

・生産性が低く、単純作業が多い（B型と同等の作業）

・最低賃金の保障ができていない

・人的余裕がない

・支援職員の経験不足

・利用者の定着が不安定（特に精神の方）

・企業とのパイプが弱い

・他機関や他事業所との連携方法等の仕組みがない

【現状考えられる課題】

（事業所運営）

・一般就職への就労支援の目的が意識されていない

・一般就労に向けた支援の道筋がはっきりしない

・一般就職への就労支援のノウハウが足りない

・就職後の定着支援が不十分

・事業の生産性と一般就労へのジレンマ

【現状考えられる課題】

（利用者への影響）

・経済的自立への収入が得にくい

（1日の就業時間　最低賃金×4時間程度が多い）

・上記により、社会保険（健康・厚生）への未加入者が多い

・雇用保険未加入の実態もあり

・希望する就労訓練、福祉的支援が十分に受けられない

・適切な能力評価（賃金評価）がなされていない

・自立に向けての情報が不足、将来の目標設定ができない

・一般就労後も仕事が続けられるか不安に感じる

【現状考えられる課題】

（公費支出の適正化）

・事業収入が少なく、訓練等給付への依存度が高い

（制度上の課題）

・就労継続支援B型事業と同じ職員配置（7.5もしくは10：1）

・就労支援員の配置なし

・就労移行支援体制加算が低い（26単位/日）

２．Ａ型事業所研修会を開催して

平成25年度　第一回A型事業所研修会

【内　容】

第一部：講　話

テーマ「就労継続支援A型事業所の現状と課題

①「就労継続支援A型事業所の現状と課題について」

（熊本市障がい保健福祉課）

②「就業・生活支援センターの役割と就労系福祉サービス事業所との連携について」

（くまもと障がい者ワークライフサポートセンター縁）

第二部：懇話会（各班でのグループワーク）

平成25年度　第一回A型事業所研修会

【参加状況】

参加事業所：23事業所（1事業所当日欠席）

参加率：　23／38　約60.1％

参加者数：24名（3名当日欠席）

平成25年度　第一回A型事業所研修会

【懇話会でのグループ討議内容】

①職員のスキルアップ

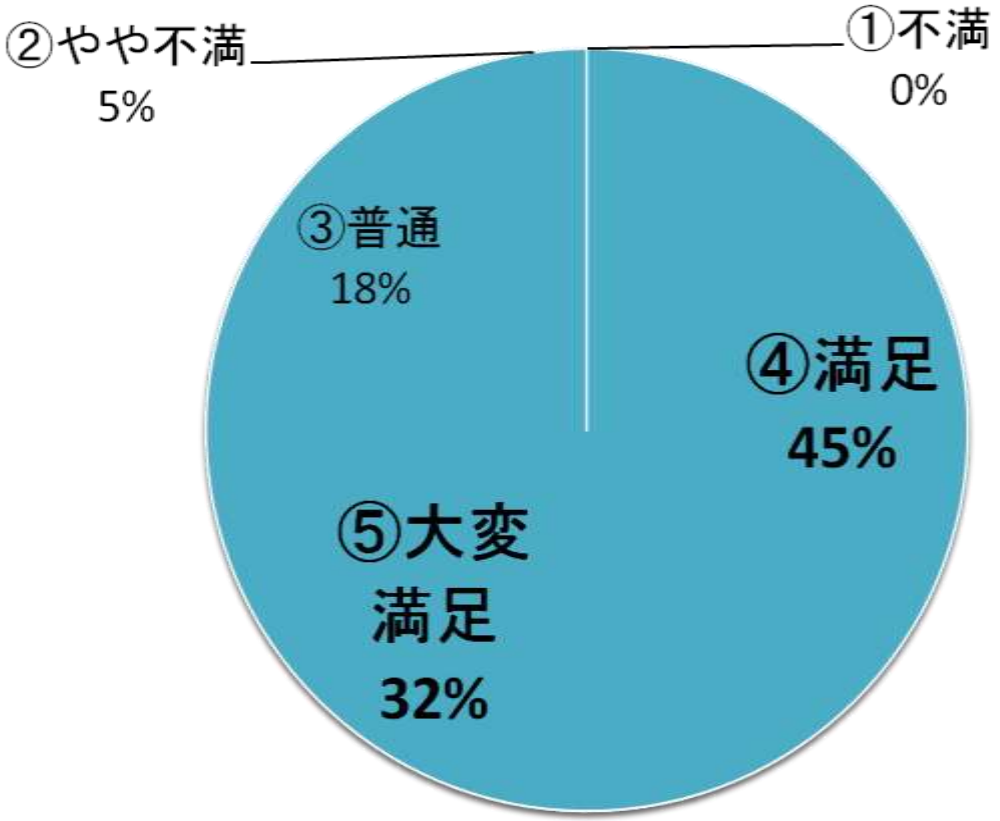
②利用者支援

③事業所運営

④連携ネットワーク

平成25年度　第一回A型事業所研修会

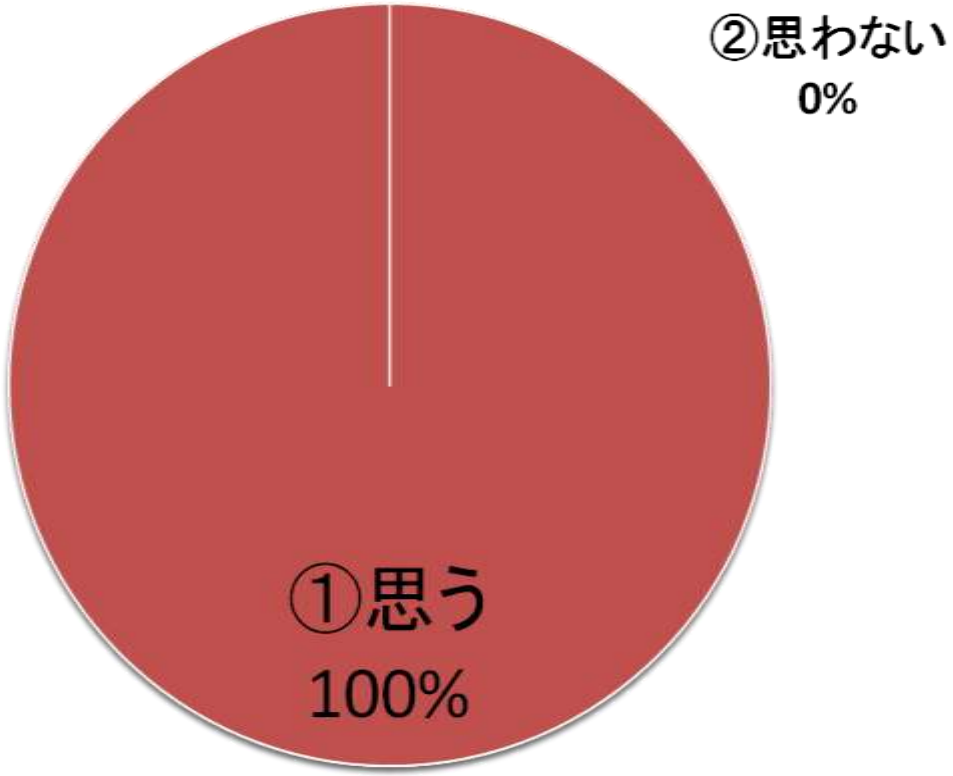
【アンケート結果】 研修会に対する満足度



※参加者の77%が満足以上と回答した

平成25年度　第一回A型事業所研修会

【アンケート結果】 話し合える場への参加



※参加者全員が次回も参加したいと回答した

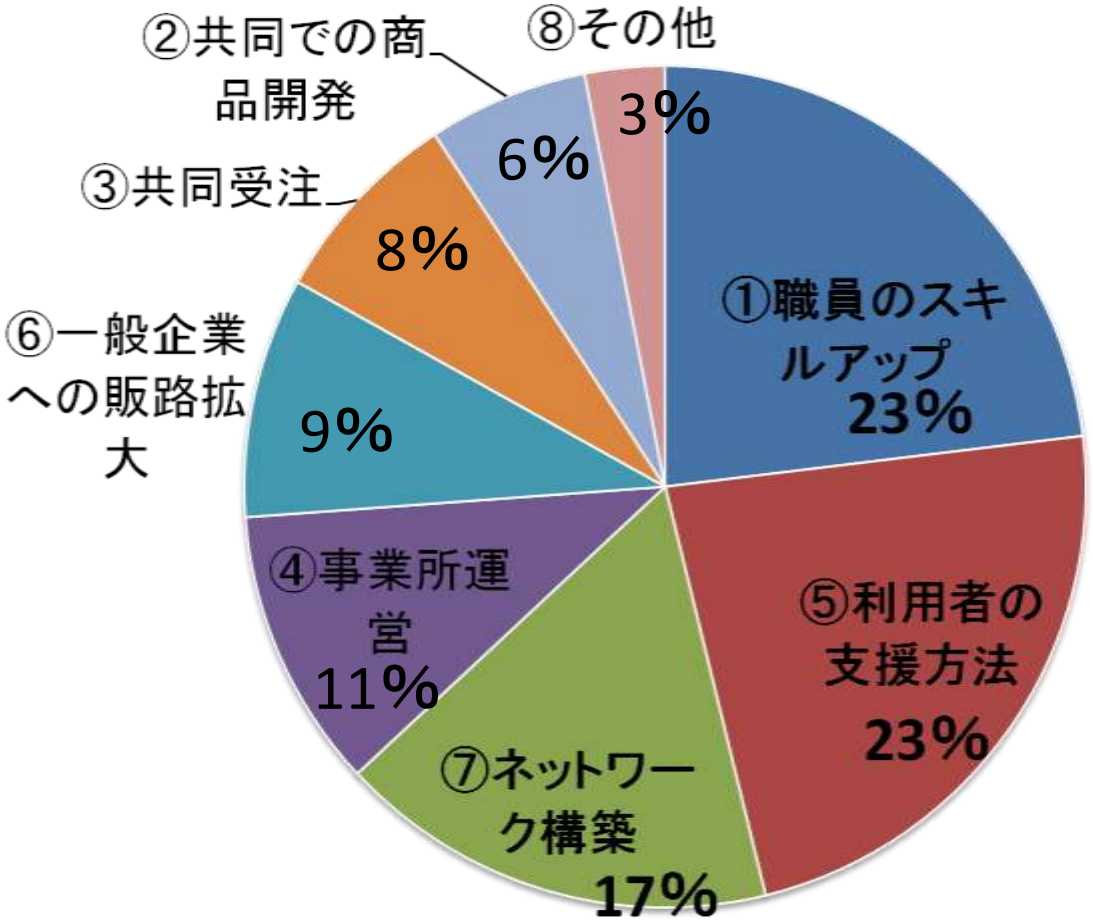
平成25年度　第一回A型事業所研修会

（参加したい理由）一部抜粋

- 課題や思いが共有できた
- 悩み等が話し合えた
- 今後A型事業所として運営していく中で、学ぶべきことがたくさんある
- 各施設間で抱えている諸問題を共通理解して支援に結び付けたい
- 情報交換や色々な問題点についての共有や解決方法等ができる
- 同じ福祉を行う事業所事業所同士の連携が必要だと感じるため

平成25年度　第一回A型事業所研修会

【アンケート結果】 今後希望するテーマ



平成25年度　第一回A型事業所研修会

（就労部会に望むもの、期待するもの）一部抜粋

- 研修会の定期的な開催と、もう少し長く時間を
- サビ管の勉強会の機会を作ってほしい
- A型事業所としてより理想的な支援を運営している所を見学に行きたい
- 障がい当事者が誇りをもって働くことができる環境づくりは1事業所だけでは限界があり、事業所間連携、行政やその他機関の連携が必要だと思う
- A型やB型、移行支援の事業所も就労部会参加につなげ、盛り上がればいいと思う

3. 今後に向けて

A型研修会後のファシリテーターの意見

- A型事業所の受注ネットワーク（共同受注窓口）や、サービス管理責任者の集まりの場は必要である。
- このような研修の場を頻繁に開く必要がある。連携が取りやすくなり一人で悩まなくていいという雰囲気が安心する。もっと多くの事業所の方にも聞いてほしい。
- 色々な事業所の方から話を聞く機会があればとの声が多い。是非今後につなげていきたいと感じた。
- 参加者の皆さんは、「A型事業所同士でつながりたい」という想いをお持ちだった。互いに良きライバルとしながらも、助け合ってよりよいA型事業所にしていきたいとの意欲を感じた。そして、その想いや事業所の良さ（良い取り組み）を発信していくことで、熊本らしいA型事業所を作っていけるのではないかと希望が持つことができた。

A型研修会後のファシリテーターの意見

- 一般就労への流れが出てきた昨今、A型事業所も一般就労に向けての取り組みを求められている。しかし、その取り組みができるほど事業所に余裕がないことも事実。

  利用者が一般就労にチャレンジできる環境を整えるためには、これまでの「共に働く」「仕事を回す」「収入確保」ということ以外に、職員が「支援」「サポート」の技術をさらに高く身につける必要性が出てきたということである。

  そのためには、支援者にも「覚悟」が必要であり、その気持ちを育てられるようなスキルアップの機会（場）が望まれる。

A型研修会後のファシリテーターの意見

事業所の規模や作業内容に多少の違いはあれど、各参加者については障がい者への就労支援に関する知識や情報等が不足しているとの認識がある。それぞれの事業所内では日々支援者は悩みながら利用者支援をおこなっているという実状を感じた。このような状況を踏まえると、今年度、A型事業所が一同に会した意義はとても大きなものであり、今後もこのような機会（場）の提供の必要性を感じるものである。

事業所同士が共通の課題を共有することは、事業に携わる者の意識を変革向上させ、本市の就労系障がい福祉サービスの発展において大きな意味を持つものと考える。

これからも、障がい当事者の「はたらきたい」という想いに共に寄り添いながら、より良いサービス体制の実現（熊本らしさ）に向けて活動を続けていきたいと考える。

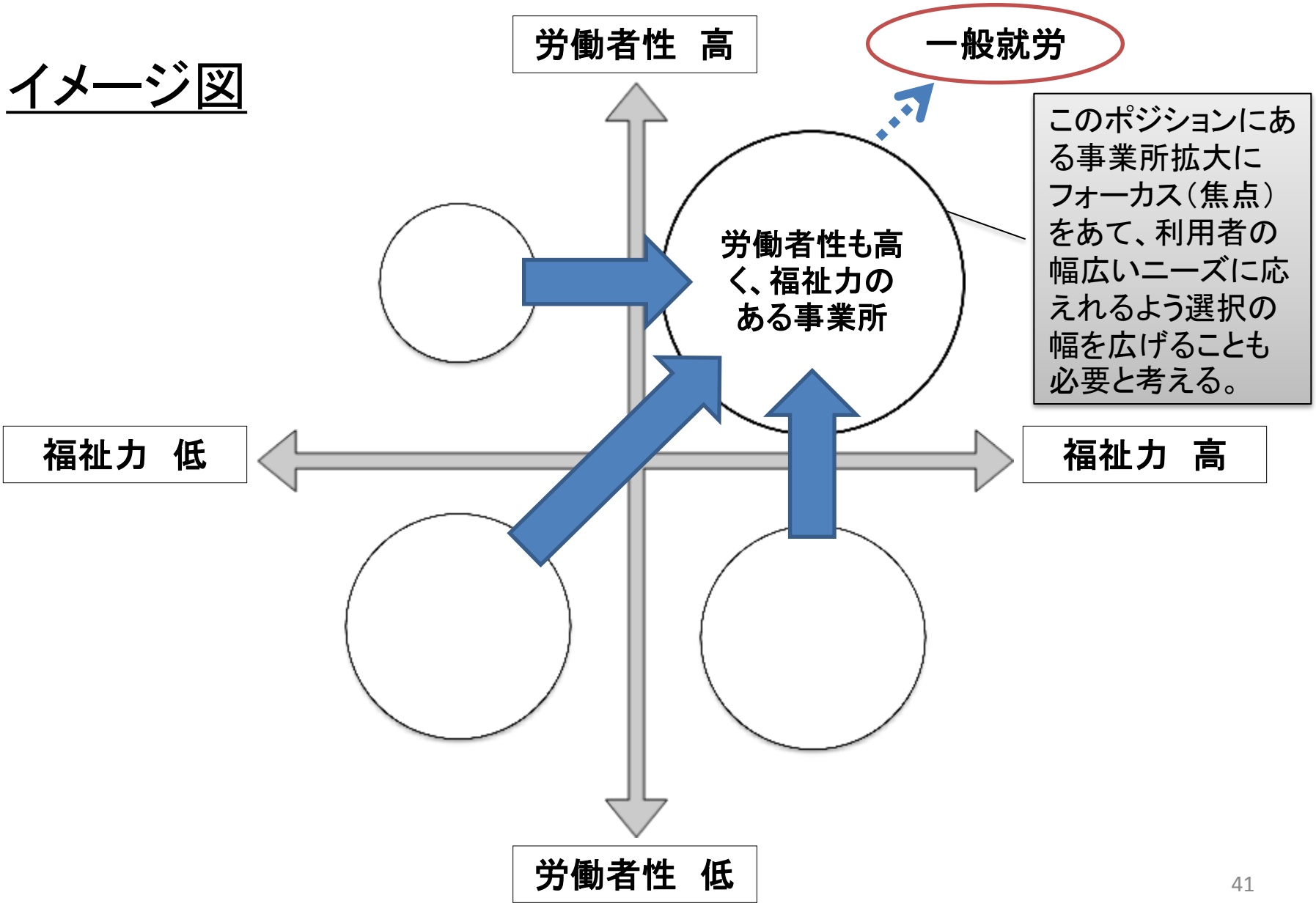
現状の課題解決、さらなる発展に向けて

今後引き続き、就労部会の中で協議・検討を重ねながら、それぞれ5つのリソース（ヒト・モノ・カネ・時間・情報）についてフォーカスを当て課題解決に取り組みます。
そのためには、他の部会や、支援機関・団体などと連携することで、A型事業所に対する総合的なサポートの構築を目指します。また、B型事業所、移行支援事業所にもそのサポートの輪を拡げていきます。

将来的には、それぞれの事業形態に応じた協議会組織等（一案として、部会の中に班を構成することも検討）に移行していただき、自助グループ活動につながればとも考えています。
そのためのきっかけづくりとして、本年度の活動があったと認識しています。

【事業所のポジショニング】

イメージ図



次年度も、引き続き、共に学びながら、就労継続A型事業所へのサポートに取り組みたいと考えています。

熊本市における就労系障がい福祉サービスの更なる向上につながれば幸いです。

A型サポーター委員会